友人に求めるやさしさの分類とその性差
―大学生を対象とした予備的研究―

Categorizing the Kindness Demanded by Friends, and Gender Differences
―A Preliminary Study with College Students―

内　田　蒼　麻・山　内　裕　斗
UCHIDA, Soma ・ YAMAUCHI, Hiroto

岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要
第53号　2022年３月　抜刷
Journal of Humanities and Social Sciences
Okayama University Vol.53 2022

友人に求めるやさしさの分類とその性差
―大学生を対象とした予備的研究―

内　田　蒼　麻*・山　内　裕　斗*

問題と目的

人の性格を表す言葉としてやさしいがある。それは日常的に肯定的な感情を伴って使われ、またよく聞く言葉である。高井・岡野（2009）では異性に求めるものの第一位として両性共にやさしさが挙げられていることを示しており、やさしさは親密な人間関係を築くのにあたり不可欠な要素である。では、具体的に「やさしい」とはどういう意味であろうか。広辞苑（2008）には“やさしい”の意味として古語含め様々な意味が載っているが、対人関係における“やさしい”の代表的な意味としては「周囲や相手に気をつかって控え目である。」や「おだやかである。すなおである。」「情深い。」などとある。しかし、竹内（2016）では、1990年代に出たヒットソングで使われている“やさしい”の意味を分析しており、その7割は「親切だ」であったが、中には否定的にとらえられるやさしさもあり、それは優位性としてのやさしさや、偽善性としてのやさしさ、甘えたありかたとしてのやさしさであった。そこから辞書的な意味以外にも「やさしさ」はより微妙なニュアンスを含んで使われていることがわかる。もちろんこの分析はあくまで歌詞、つまり詩に対しての分析であり、それら「やさしさ」の使われ方としてメトニミー的、比喩的に使われている側面もあるのでこれらをもって直ちに「やさしさ」の意味として考えることはできない。しかし、これらの比喩やメトニミーがやさしいということばに乗せて使用され、しかもその歌がベストヒットとなっていることからも、それらを「やさしさ」の一側面として捉えることはできるだろう。そうした場合、「やさしい」という言葉には先ほど挙げた以上の意味が含まれていると考えられる。驚くことに、大平（1989）によればお年寄りに席を譲らないこともやさしさであって、その理由として席を譲ることで年寄りであるというラベリングにつながるからだと述べている。

また、やさしさの意味をより明確にするために、類似概念の整理を行う。「やさしさ」の英訳として充てられているのは「kindness」であるが、「kindness」は「親切」とも訳され、「やさしさ」に近しい概念として挙げることができる。近藤良樹の哲学論をまとめつつ、心理学的視点を盛り込み、親切の概念を整理した深田（2015）によれば、「親切とは、個人が、小さい負担を覚悟し、あたたかい思いやりの気持ちをもって、愛他的な動機から自発的に、困っている他者の利益になる無償の手助け･贈与を偶発的に実行し、その行為を他者が肯定的に評価すること」である。「やさしさ」

* 岡山大学大学院社会文化科学研究科 博士前期課程

と「親切」の関係について、近藤（2007a）は、親切な人の特徴の一つとして「優しそうで暇や余裕のありそうなひと」を挙げている。このとき、近藤（2007a）はやさしくすることを、「その心身を傷つけないようにショックや困惑を与えないように、荒々しく粗雑にならないようにし、細やかに気を使い、攻撃的になったり冷酷になることなく、あたたかくおだやかに関わるのである。」と述べている。また、「親切心」を「困っていたり求めのある他人に対して、やさしい気持ちをもち、これに同情し、その解消にささやかな援助・手助けをしたいと、好意的に、あたたかにこれを思いやることであろう。」と述べており、「やさしさ」は「親切心」と深く関係していることがわかる。一方で「だが、優しいだけでは、親切にはならない。 優しい試験官は、厳しく問い詰めることをしないで、答えやすいようにたずね、穏やかに受けとめる。親切な試験官は、やさしさに加えて、答える際に、これを導くように手助けをしてくれるひとである。やさしく手助けをするのが親切である。親切心は、やさしい慈しみの気持をもち、利他の気持をもちつつ、困っているひとの手助けをしようと心がける贈与的な愛のこころをもつ。」とも述べている。つまり「やさしさ」とは親切行為をする際の心性という一面があるという一方で、その行為に手助けという要素が強まった場合は親切行為となることがわかる。

さて、深田（2015）の「親切」の定義では、親切が愛他心的な動機から自発的に行われることとされる。「やさしさ」を、親切行為をする人の心性ととらえた場合、「やさしさ」とは「愛他心」とよく似た概念と言えるであろう。そこで「愛他心」について整理を行う。なお、金子（1999）では「やさしさ」の類似概念として向社会的行動と思いやり行動を挙げているが、どちらも愛他心と同意味として使われている用語である（浅川，2008；坂井，2015）ため、本稿では区別しない。愛他心とは高野（1982）では「①外的な報酬を期待することなしに、②他者の福祉や利益のために行動しようとする心」と定義している。また高野（1982）をはじめ、様々な定義をもとに江口（2002）では愛他行動を「外的な報酬を期待せず、他者のためになり（他者を満足させるために）、自発的・意図的になされ、自己犠牲を伴う行動である」としている。

類似概念から、やさしさは親切行為の心性であること、愛他心と似ており、それは「①外的な報酬を期待することなしに、②他者の福祉や利益のために行動しようとする心」と考えられる。しかしやさしさは愛他心の定義と共通しているであろうが実際にどのような意味を内包しているのかは定かではない。

以上、辞書や哲学的な意味、類似概念の整理を通じてやさしさの意味についての探索を行った。このように様々な側面や意味を持つやさしさであるが、栗原（1989）によれば「やさしさが一つの価値や生き方として見出され、世代感覚として共有され、からだと日常生活に一つのサンタマリアとして浸透したのは、1960年代末から70年代初めにかけての時期であった。」という。そんな「やさしさ」は時代を追うにつれ意味が変化してきた。大平（1995）ではこれを「お互いの弱さを舐めあうようなやさしさ」から、「お互いを傷つけない“やさしさ”」に変わったとし、患者の言葉を借

りて前者を「hot」なやさしさ、後者を「warm」なやさしさとしている。この大平（1995）のやさしさの2大分類をもとに広辞苑（2008）の「やさしさ」の意味を分類すると、ここでは「warm」なやさしさを扱っていることがわかる。

金子（1997）では、やさしさの2側面について言及しており、「一つは従来からの「価値」としての意義であり、今一つは「予防的」側面から誕生した「対人技能」としての意義である。現代においてやさしさは、社会的に望ましい価値意識として捉えられながら、社会生活を営むうえで生じる軋轢の緩衝材＝道具としても要請されている。」としている。つまり「やさしさ」とは「価値」としての側面を持つと同時に「対人技能」でもあるといえ、現代においてもその意味合いは強いと考えられる。「対人技能」であるからして、その行為には受け手が存在する。その行為が対人技能として機能するには、受け手にとっての評価が重要である。つまり、自身がやさしい行動をしたと思っていたとしても受け手が迷惑だと感じれば、それは対人技能としての機能をもたない。このように受け手の評価が重要な「やさしさ」であるが、「やさしさ」を受け手の立場から検討した研究はない。「やさしさ」を受け手の立場から検討することで、他者から求められる対人技能としての「やさしさ」が明確となり、対人場面での有効なふるまい、やさしい振る舞いへの示唆が得られると考えられる。特に大学生は、エリクソン（1959）が提唱したライフサイクル論においては青年期、成人期初期の段階とされる。この時期においては、アイデンティティの形成や親密性の獲得が大きな課題とされるが、アイデンティティの形成においては親などそれまで心理的に依存していた対象から独立し、友人や先輩などの人間関係の中でアイデンティティを見出していくようになる。アイデンティティの形成はこの時期にとどまらず生涯にわたって続くことになるが、それは次の段階である成人期初期にも受け継がれる。この時期においては、恋愛関係に限らず、異性を含めた人間関係が重要となってくる。それは、友人などの親しい他者と活発に議論する中で自分を見つけていくためでもある。特に後藤（2010）では、近年の若者のアイデンティティと「キャラ化」の関係について土井（2004）を援用しつつまとめている。土井（2004）によると近年の若者が抱く自己像から、社会的な役割や成長の側面が欠落し、そのために若者の行動規範や価値判断の基準が自分の生理的な感覚や内発的な衝動となってしまうのだが、後藤（2010）によれば、「近年の若者は生理的感覚や内的な衝動を重視する若者は自己概念を支えるために他者からの自己承認を求める。そのため、集団形成は「外見」を手掛かりに、コミュニケーション能力や性格的な特徴が自分と類似している他者を優先的に選択する。若者の社会的アイデンティティはこのような場面で顕在化し、意識される。さらに、集団内部では各自の個人的アイデンティティによってキャラが付与される。（中略）このように、若者は社会的アイデンティティと個人的アイデンティティとを再帰的にとらえ、内キャラとしてアイデンティティを形成する。ただし、若者のアイデンティティの再帰性は、身近な他者の反応という、自己の生活の範囲に限定されている。」とし、近年の若者が身近な他者からのキャラ化によって再帰的に自己のアイデンティティを形成することを明らかにしている。ここから、近年の若者にとっ

てアイデンティティを形成するにおいても他者の存在の重要性が指摘されており、現代の大学生において、親密な人間関係を築くことは特に重要な課題の一つと言えよう。その中で対人技能もある「やさしさ」は大きな役割を担うといえる。特に「やさしさ」は他の類似概念と違い、価値と対人技能という2側面を持っていると指摘されており、複雑な意味構造を持っていることが示唆される。日常語であり、異性の求めるものの一位に選ばれる（高井・岡野，2009）という面でも関心の高いのにもかかわらず意味が発散している「やさしさ」についてそれらをまとめ整理することは現代人が「やさしさ」で包含する、好ましいと考えられる行動や心性について示唆が得られるであろう。また、それを受け手側からとらえることでより客観的な視点から整理することができ、大学生という、モラトリアムにいながら他者との交流を通して自己を見出す時期を対象とすることで、社会的慣習や教育的価値観に意味を引きずられすぎず、また流動的で固定化していない多様な「やさしさ」を引き出せると考える。

そんな「やさしさ」であるが、菱田（2003）によれば「やさしさ」の獲得過程、優しい行動をするまでの思考過程が男女で異なっていることが示唆されている。また、類似概念の愛他心について高野（1982）ではその性差の存在を示唆している。ここから、「やさしさ」に対する認識が男女で異なると考えられる。さらに、今尾他（2019）の研究では「やさしい」と感じる具体例を受け手の性別、動作主の性別、物理的か心理的の3つの観点から分類したところ、受け手の性別によってやさしいと感じるとして挙げられる行動には違いが見られ、具体的には男性はやさしさとして両性ともに心理的行動を求めるが、女性は男性に対し物理的行動を、女性に対し心理的行動を求めると報告している。このように男女でやさしさに対する認識が異なるばかりでなく、その行為者の性別によって求められるやさしさの行動は違うと考えられる。

このように行為は同じであっても行為者の性によって受け手の受け取り方が違うことは行為の受け手の持つ、性に対する認知的な枠組みやジェンダー・スキーマが影響していることが予想される。特に伊藤（1997）は、 人が自己を取り巻く環境を認知、評価する際の性に関する認知的な枠組みを「性差観」と名付けた。性差観は学校環境、メディア接触、生育過程、親の性別化期待から形成され、性差観から性役割態度につながり、さらに性役割選択へという因果も明らかになっている（伊藤，1997）。また、児玉・杉本・松田（2002）は男女大学生の性役割認知について、女性性と人間性に関して、女性の方が男性より、社会からの期待以上に自己にとって重要と認知する傾向を見出している。このように、性差観、性役割の認知は社会生活を営み、他者と関わるうえで影響を及ぼし、それは他者に対する「やさしさ」についても当てはまることが予想される。このことからも性差観が同様に友人に求めるやさしさの性差に影響を与えると考えられる。

そこで本研究では、まず研究1で調査としてやさしさを受け手側からとらえることに重点を置き半構造化面接を実施し、現代の大学生が同性・異性の友人に求める具体的な「やさしさ」を探索的に調べ、KJ法により分類し、やさしさの項目を挙げる。そして研究2では研究1で抽出した項目を

どの程度同性または異性の友人に求めるのかを調べ、性差観との関係を明らかにすることを目的とする。

なお、本稿で友人関係に限定したのは2点理由が挙げられる。1点目は友人関係とすることで異性と同性の差が比べられることである。2点目は青年期または成人期初期にある大学生において、友人関係は発達的に重要な役割を担うとされる。その中での、特に対人技能としての「やさしさ」の側面を取り扱うことで大学生が心理社会発達的課題達成のための友人関係形成・維持への一助となることを意図したためである。

研究1

方法

調査対象　A県に住む大学生・大学院生8人（男性4人、女性4人）を調査の対象とした。

手続き　「やさしさ」について、一般的に知られている表面的な意味でだけではなく、より個別で固定化されていない意味を探るため、またインタビュアーが随時気になった点について質問できるよう、面接法を採用し、約40分の半構造化面接を行った。質問は⑴「今までに優しくされた体験やエピソードを教えてください。」⑵「あなたが友人に求めるやさしさを教えてください。」⑶「今までに出てきたやさしさを、異性にのみ求めるのか、同性にのみ求めるのか、両方に求めるのかを分類してください」の3つであった。分析に用いたのは質問⑵のみであったが、質問⑴はアイスブレイクを兼ね、質問⑵の回答を想起しやすくし、具体的な出来事と関連した回答を得やすくするため、質問⑶は研究2での考察の参考にするために行った。なお、今回の調査はオンラインで行われ、また調査前に、やめたいと思ったらいつでも調査協力を取り消せること、回答内容によりインタビュイーに不利益が生じないこと、今回の調査結果は研究目的のみに使用されること、調査内容はすぐに処理され、個人が特定されることもなく、外部に流出しないこと、学術論文や学術学会で使用されることが説明され、調査協力者の合意のもと調査が行われた。

分析方法　友人に求める「やさしさ」を調べるため、質問⑵「あなたが友人に求めるやさしさを教えてください。」についての8人の回答をKJ法によって分析した。なお、結果及び考察の【】はカテゴリ、〈〉はサブ・カテゴリ、「」は具体例を示す。

結果

調査協力者8名の回答から質問（2）での有効回答73が得られた。それらの回答を川喜田（2017）を参考にKJ法を行った。データ分類の信頼性・妥当性においては筆者である研究者2名がその内容を吟味し、内容的妥当性があると判断した。その結果サブ・カテゴリとして〈肯定的態度〉〈関係性の維持に努める〉〈気持ちを察してくれる〉〈相手の気持ちに合わせた対応〉〈親身になってくれる〉〈お礼を言う〉〈アドバイス〉〈困ったときの物理的サポート〉〈価値観の尊重〉〈周囲への配慮〉〈見

返りを求めない〉〈人を馬鹿にしない〉〈人に応じた対応〉〈人のために行動できる〉〈関係性の維持に努める〉〈遊んでくれる〉〈人のために行動できる〉の17つに分類された（Table 1）。なお、サブ・カテゴリに分類されなかった独自の回答として「無理せず自分を犠牲にしないでほしい」「誕プレをくれる」「助け合おうとしてくれる」「失敗を慰めてくれる」「話を聞いてくれる」が挙げられる。また、サブ・カテゴリやサブ・カテゴリに入らなかった回答は4つのカテゴリに分類された。カテゴリの内訳は【自分への態度】【道具的サポート】【精神的サポート】【人間性】となった。これらのカテゴリをもとに、求めるやさしさ項目群31項目を作成した（Table2）。項目作成に当たっては各カテゴリから均等に抽出すること、わかりやすい表現にすること、なるべく項目数を少なくすること、などに留意した。なお、サブ・カテゴリにまとまらない独自の回答は、これも「やさしさ」の一側面を表しているものであり、より「やさしさ」の様々な側面を質問紙に反映するため「やさしさ」のサブ・カテゴリには含まれない独自の回答も項目に入れるようにした。その際、他の選択肢と組み合わせて表現できるものは統合し、難しいものは残すようにした。

Table 1 友人に求めるやさしさのKJ法による分類によって抽出されたカテゴリ

カテゴリ	サブ・カテゴリ	回答例
自分への態度	肯定的態度	親切にしてくれる・怒らない
自分への態度	関係性の維持に努める	素直に謝ってくれる・仲良くしたい気持ちを持ってくれる
自分への態度	気持ちを察してくれる	気持ちを推し量ってくれる・言わなくても自分の気持ちに気がついてほしい
自分への態度	相手の気持ちに合わせた対応	思いやりがある・連絡するときとそっとしておいてくれるときのメリハリ
自分への態度	親身になってくれる	親身になってくれる・困っている、と言ったときせめて話を聴いてほしい
自分への態度	お礼を言う	「ありがとう」と言える・お礼を言う
道具的サポート	困った時の物理的サポート	ペンを貸してくれる・帰りが遅いときにご飯を作っていてくれる
道具的サポート	アドバイス	はっきり言ってくれる・ダメなことはダメと注意してくれる
精神的サポート	遊んでくれる	遊びに誘ってくれる・フットワークが軽い
精神的サポート	気にかけてくれる	自分のことを気にかけてくれる・定期的に連絡をくれる
人間性	周囲への配慮	周りに迷惑をかけない・気配りができる
人間性	価値観の尊重	他人の考えを尊重できる・好き嫌いを強要しない
人間性	見返りを求めない	見返りを受け取らない姿勢
人間性	人を馬鹿にしない	悪口を言わない・人を馬鹿にしない
人間性	人に応じた対応	その人が求めるような対応をしてくれる・必要な配慮はする
人間性	人のために行動できる	ごみを捨てるなど言われなくてもやってくれる・人のためになにかすることをいとわない
人間性	人の気持ちを考えて行動する	人の気持ちを考えて行動する・指摘するときに相手を思いやった指摘ができる

考察

サポートに分類された行動を概観すると、親切行為ともとれる行動が含まれているがその一方で近藤（2007a）が強調していた、いわば穏やかなやさしさには含まれないような行動である「ダメなことはダメと言ってくれる」などの厳しい行動も「やさしさ」に含まれている。近藤（2007）で

指摘されているようなやさしさは親切を求めやすい人という文脈で語られていることから、このやさしさは親切に密接したやさしさの側面を捉えた記述であるが、「ダメなことはダメと言ってくれる」のような「やさしさ」は親切とは異なった「やさしさ」の側面であると考えられる。また、【人間性】のカテゴリの〈見返りを受け取らない〉は高野（1982）の「愛他心」の定義に沿ったものということができる。一方でサブ・カテゴリに分類されなかった「やさしさ」の側面として「無理せずに自分を犠牲にしない」などの愛他心の定義とは外れるものも見受けられた。これらから「やさしさ」は類似概念として挙げられている親切や愛他心と共通するところもあるが、同じ行動や心性を表している概念ではないことが確認された。

また、ここでは「やさしさ」は「hot」な「やさしさ」も「warm」な「やさしさ」も挙げられていることがわかる。その中でも特に【人間性】の部分では「warm」なやさしさが強調されており、適切な気持ちの読み取り、その尊重、配慮が【人間性】のカテゴリの特徴であると考えられる。

全ての回答は【自分への態度】【道具的サポート】【精神的サポート】【人間性】の4つに分類された。ここから、友人に求める「やさしさ」とは、具体的な道具的・精神的なサポート、普段の人間性、普段の自分への態度に大別されることがわかる。ここから、求める「やさしさ」は大きく、サポートという具体的行動を示す側面と、自分への態度、つまり人との向き合い方という側面と、その人自身が持つ人間性という性格を示す側面という3つの側面でとらえられていることがわかる。

また、友人に求めるやさしさを質問した際にこのように行動で回答するというのは、やさしさを表すような行動はある程度決まっていることを示している。つまりやさしい行動は文脈や個人に左右されにくいと推察される。

研究2

方法

調査対象　社会人を調査に含めると仕事上の認識が影響することが予想されるため、調査対象は大学生と大学院生とした。倫理的配慮として、調査前にこの回答は統計的に処理され、個人が特定されることがないこと、回答しなかったり、回答を途中でやめたりしても回答者に不利益が生じないこと、個人情報の保護に最大限配慮すること、研究で得られた回答は学術論文や学術学会にて使用させていただくことがあることを説明した。そのうえで調査に協力が得られた110名のうち、すべての項目に回答している96名（男性32名、女性64名）を調査の対象とした。

手続き　Googleフォームを利用し、オンラインにより質問紙調査を実施した。

使用尺度　友人に求めるやさしさ尺度、性差観スケール短縮版

友人に求めるやさしさ尺度：研究1でまとめた「求めるやさしさ」の分析を参考にしつつ、実際の回答をもとに調査者が作成した。31項目から成る。質問項目に対し、どの程度友人に求めるのかを、異性・同性ごとに1（求めない）～4（求める）の4件法で尋ねた。

性差観スケール短縮版：性差観スケール（伊藤，1997）から、伊藤（1997）の各項目の寄与率と、山田（2020）の調査での各項目の平均値、標準偏差を参考に、内容として男女を均等にすること、寄与率の高い項目を選ぶこと、平均値が2.5に近く、標準偏差が大きすぎないことに留意し15項目を選定した。妥当性については、（伊藤，1997）の性差観スケールは1因子であり、今回選定した項目は、2名の筆者で吟味し、内容的妥当性があると判断した。具体的な項目として、「子育ては、やはり母親でなくては、と思う。」「男性は女性にくらべ、攻撃的である。」「女性は男性に比べ、感情的である。」「人前では、妻は夫を立てた方がよい。」「冒険やロマンは、男性の究極のよりどころである。」「女性が入れたお茶はやはりおいしい。」「女性は男性にくらべ、臆病だ。」「論理的思考は、男性の方がすぐれている。」「女性は男性にくらべ、手先が器用である。」「一家の家計を支えられないような経済力のない男性は、男として失格である。」「女性は何かにつけて責任を回避しがちである。」「最終的に頼りになるのは、やはり男性である。」「男はむやみに弱音を吐くものではない。」「体力において男性がまさる以上、社会のあらゆる場で男性が優位な地位を占めるのは、やむをえない。」「男性と女性は、本質的に違う。」を採用した。各質問項目に対し、1（そう思わない）～4（そう思う）の4件法で尋ねた。

結果

1)「やさしさ」の因子分析

友人に求めるやさしさの性差尺度の各項目で異性に求める得点と同性に求める得点の和を算出し、それぞれの項目のやさしさ得点とした。全31項目について探索的因子分析によって因子構造を検討することとした。なお標本数が少ないことを加味し、最小二乗法を用い、また抽出された因子間にも一定の相関があることが想定されるためプロマックス回転を用いた。8因子の固有値が1.081であったのでガットマン基準により8因子で分析したところ、複数の因子で項目が3つ以下のものが見られ、解釈が困難と判断したため、スクリープロットを参考にし、1因子は固有値9.738、2因子は固有値2.276、3因子は固有値1.818であったため、1因子での分析を試みた。その結果、$\alpha = .80$の1因子23項目の因子構造になった（Table 2）。なお、因子負荷量が0.40未満の項目は削除した。

Table 2「やさしさ」の因子分析結果

	因子
	1
私が困った時に助けてくれる	.776
私の相談に乗ってくれる	.763
私に親身になってくれる	.749
私の用事を手伝ってくれる	.724
褒めてくれる	.702
私のことを気にかけてくれる	.701
私の失敗を慰めてくれる	.694
周囲のために行動する	.674
言わなくても私の気持ちに気がついてくれる	.646
私に素直に謝ってくれる	.639
他人の気持ちを考えて行動する	.604
私を遊びに誘ってくれる	.595
他人の考えを尊重する	.591
私の話を否定せずに聞いてくれる	.586
私が遊びに誘うとだいたい乗ってくれる	.568
私の話を最後まで聞いてくれる	.550
してあげる行為に見返りを求めない	.513
お礼を言う	.512
けんかしても許してくれる	.508
どんな状況でも友達でいてくれる	.506
私の状況を踏まえたうえで、連絡するときとそっとしておく時のメリハリをつける	.453
周囲に配慮し身をわきまえる	.431
必要な時に些細なものを貸してくれる	.420

【削除した項目】
いらいらを表に出さない
私が決めあぐねている時に代わりに物事を決めてくれる
悪口を言わない
私の欠点を指摘してくれる
人を区別しない
私の間違いを叱ってくれる
私の好みに口出ししない
頼みごとをした時に無理なら無理と言ってくれる

2）友人に求めるやさしさの程度の性差と性差観の関連

友人に求めるやさしさの性差尺度において、上記の因子分析で得られた23項目を採用し、項目ごとに同性に求める得点と異性に求める得点の差の絶対値をとり、それらの合計を求め、やさしさの性差得点とした。やさしさの性差得点が高いことは、やさしさを求める相手の友人が同性か異性かでその行為を求める程度が異なることを意味している。また、性差観スケール短縮版の各項目の合計得点を性差観スケール得点とし、性差観スケール得点の下位50％と上位50％をそれぞれ性差観低

群（49名）、性差観高群（47名）とした。性差観低群と性差観高群で、性差観スケール得点に有意な差があることは確認された（t（94）=13.64, p<.01）。それぞれの群において、求めるやさしさの性差得点の平均値を算出したところ、性差観低群9.224（SD=10.63）、性差観高群14.234（SD=12.18）であった。Mann-WhitneyのU検定の結果、性差観高群は性差観低群に比べ、有意に求めるやさしさの性差得点が高かった（z =2.358, p<.05）（Figure 1）。

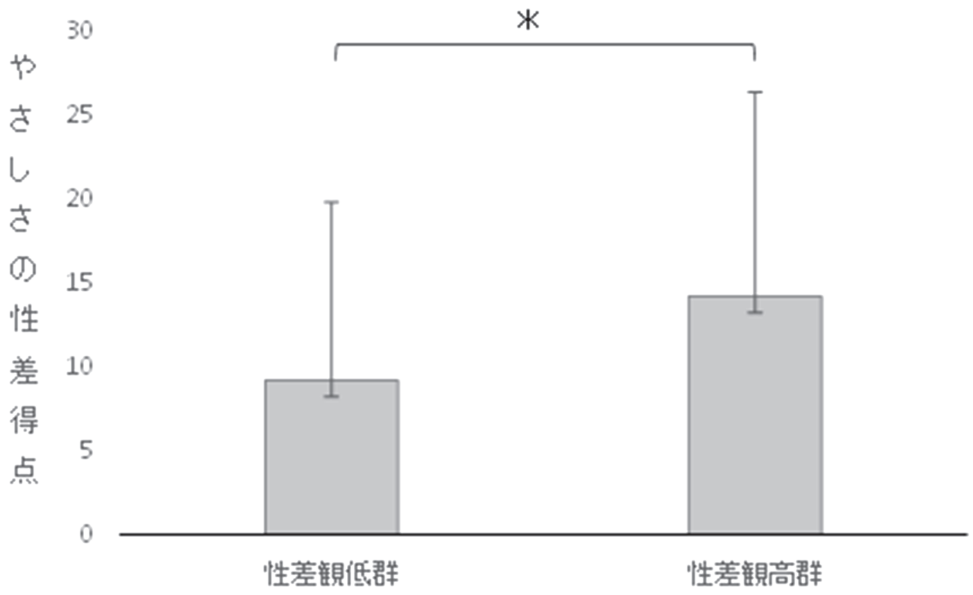

Figure1　やさしさの性差得点における性差観低群と高群の比較

3）求めるやさしさの項目ごとの特徴

それぞれの項目で男女別に、異性に求める得点と同性に求めるやさしさの平均値比較を行いWilcoxonの順位和検定を行った（Table3、4）。その結果、男性では「私を遊びに誘ってくれる」「私が遊びに誘うとだいたい乗ってくれる」「私が決めあぐねているときに代わりに決めてくれる」「私が困ったときに助けてくれる」の項目で有意に、異性より同性の方が得点が高い、ということがわかった。また、女性では「私を遊びに誘ってくれる」「私が遊びに誘うとだいたい乗ってくれる」「私が決めあぐねている時に代わりに決めてくれる」「わたしが困ったときに助けてくれる」の項目で有意に異性より同性の方が得点が高い、ということが示された。

Table 3　男性における、同性、と異性にそれぞれ求めるやさしさの比較

	求める相手（平均）			
	同性（男性）	異性（女性）	性差	p 値
私を遊びに誘ってくれる	2.882	2.471	同性＞異性	$p < .01$
私が遊びに誘うとだいたい乗ってくれる	2.706	2.441	同性＞異性	$p < .05$
言わなくても私の気持ちに気がついてくれる	2.088	2.059		
私の状況を踏まえたうえで、連絡するときとそっとしておく時のメリハリをつける	2.382	2.412		
周囲のために行動する	2.676	2.676		
周囲に配慮し身をわきまえる	3.294	3.412		
他人の考えを尊重する	3.471	3.412		
私に素直に謝ってくれる	3.176	3.147		
他人の気持ちを考えて行動する	3.529	3.529		
私の話を最後まで聞いてくれる	3.029	2.971		
してあげる行為に見返りを求めない	2.588	2.471		
私の話を否定せずに聞いてくれる	2.471	2.500		
必要な時に些細なものを貸してくれる	3.118	2.971		
私に親身になってくれる	3.088	3.088		
褒めてくれる	2.529	2.706		
どんな状況でも友達でいてくれる	2.971	2.912		
お礼を言う	3.500	3.559		
私の失敗を慰めてくれる	2.559	2.765		
私のことを気にかけてくれる	2.765	2.912		
私の相談に乗ってくれる	2.765	2.853		
私が困ったときに助けてくれる	3.088	2.824	同性＞異性	$p < .05$
私の用事を手伝ってくれる	2.588	2.412		
けんかしても許してくれる	3.147	3.176		

Table 4　女性における、同性、と異性にそれぞれ求めるやさしさの比較

	求める相手（平均）			
	同性（女性）	異性（男性）	性差	p 値
私を遊びに誘ってくれる	2.919	2.435	同性＞異性	$p<.01$
私が遊びに誘うとだいたい乗ってくれる	2.661	2.403	同性＞異性	$p<.05$
言わなくても私の気持ちに気がついてくれる	2.484	2.468		
私の状況を踏まえたうえで、連絡するときとそっとしておく時のメリハリをつける	2.919	2.984		
周囲のために行動する	3.097	3.113		
周囲に配慮し身をわきまえる	3.403	3.419		
他人の考えを尊重する	3.694	3.726		
私に素直に謝ってくれる	3.339	3.371		
他人の気持ちを考えて行動する	3.694	3.613	同性＞異性	$p<.05$
私の話を最後まで聞いてくれる	3.258	3.210		
してあげる行為に見返りを求めない	2.694	2.677		
私の話を否定せずに聞いてくれる	2.984	2.984		
必要な時に些細なものを貸してくれる	3.032	2.806	同性＞異性	$p<.01$
私に親身になってくれる	3.210	3.048	同性＞異性	$p<.05$
褒めてくれる	3.113	2.919	同性＞異性	$p<.05$
どんな状況でも友達でいてくれる	3.194	2.790	同性＞異性	$p<.01$
お礼を言う	3.565	3.548		
私の失敗を慰めてくれる	3.194	2.935	同性＞異性	$p<.01$
私のことを気にかけてくれる	3.161	3.032		
私の相談に乗ってくれる	3.290	2.919	同性＞異性	$p<.01$
私が困ったときに助けてくれる	3.323	3.129	同性＞異性	$p<.01$
私の用事を手伝ってくれる	2.742	2.661		
けんかしても許してくれる	3.113	3.065		

4）性別ごとに求められるやさしさの各項目の違い

各項目で男性が同性に求めるやさしさと女性が異性に求めるやさしさを「男性に求めるやさしさ」とし、また男性が異性に求めるやさしさと女性が同性に求めるやさしさを「女性に求めるやさしさ」として、項目ごとの平均値を算出した（Table 5）。また、それぞれの項目の男性に求めるやさしさと女性にもとめるやさしさの平均値比較を行い、Wilcoxonの順位和検定を行ったところ、「他人の考えを尊重する」（z=2.00、p<.05）「私の間違いを叱ってくれる」（z=2.86、p<.01）「私に親身になってくれる」（z=1.966、p<.05）「褒めてくれる」（z=2.489、p<.05）「どんな状況でも友達でいてくれる」（z=3.537、p<.01）「私の失敗を慰めてくれる」（z=3.472、p<.05）「私のことを気にかけてくれる」（z=2.285、p<.05）「私の相談に乗ってくれる」（z=3.877、p<.01）の項目で有意であった。

Table 5　男性と女性でそれぞれに求められるやさしさ得点の平均

	男性に求めるやさしさ	女性に求めるやさしさ	求める相手	p 値
私を遊びに誘ってくれる	2.594	2.76		
私が遊びに誘うとだいたい乗ってくれる	2.51	2.583		
言わなくても私の気持ちに気がついてくれる	2.333	2.333		
私の状況を踏まえたうえで、連絡するときとそっとしておく時のメリハリをつける	2.771	2.74		
周囲のために行動する	2.958	2.948		
周囲に配慮し身をわきまえる	3.375	3.406		
他人の考えを尊重する	3.635	3.563	男性＞女性	$p < .05$
私に素直に謝ってくれる	3.302	3.271		
他人の気持ちを考えて行動する	3.583	3.635		
私の話を最後まで聞いてくれる	3.146	3.156		
してあげる行為に見返りを求めない	2.646	2.615		
私の話を否定せずに聞いてくれる	2.802	2.813		
必要な時に些細なものを貸してくれる	2.917	3.01		
私に親身になってくれる	3.063	3.167	男性＜女性	$p < .05$
褒めてくれる	2.781	2.948	男性＜女性	$p < .05$
どんな状況でも友達でいてくれる	2.854	3.094	男性＜女性	$p < .01$
お礼を言う	3.531	3.563		
私の失敗を慰めてくれる	2.802	3.042	男性＜女性	$p < .05$
私のことを気にかけてくれる	2.938	3.073	男性＜女性	$p < .05$
私の相談に乗ってくれる	2.865	3.135	男性＜女性	$p < .01$
私が困ったときに助けてくれる	3.115	3.146		
私の用事を手伝ってくれる	2.635	2.615		
けんかしても許してくれる	3.094	3.135		

考察

研究2では、研究1で作成した質問紙の項目を「やさしさ」として、その「やさしさ」をどの程度友人に求めるのか、ということを性差観に関連させて調査した。まず、研究1で質的に行った分類と質問紙で量的に行った質問紙調査の差異を調べるために因子分析を行って統計的な「やさしさの」分類を行った。Table2より、やさしさの構造は1因子としてまとまった。研究1では4つのカテゴリに分類されていたものの、研究2では1因子構造となったことは、項目すべてが共通因子として想定している「やさしさ」に強く影響されていることを示しており、また逆にそれ以上に項目が分かれなかったことはこれらの項目がやさしさの様々な面をそれぞれが独自に描き出している結果と言え、研究1によって分類したサブ・カテゴリは程よく分かれていることが分かった。

また逆に研究1において、カテゴリとして4つ想定されたが、因子として抽出されなかった。それは、カテゴリとして分類された、【自分への態度】【道具的サポート】【精神的サポート】【人間性】

はそれぞれがまったく別物というわけではなく、相互に関連しあっているものと考えることができよう。例えば【精神的サポート】に含まれるような「相談に乗ってくれる」などは一方でその行動から読み取れる「人間性」までも内包している可能性が挙げられる。また逆にその課題として、今回違った「やさしさ」として現れた「やさしさ」には、上記のような、違う側面から見ただけであって、実は同じものである、という可能性が指摘される。つまり今回の研究では「やさしさ」の様々な側面を描き出し、分類することはできたが、「やさしさ」の根本部分を収束的にまとめることはできなかった。また、今回の尺度は妥当性が十分に検討されておらず、また相手に求める、という側面で「やさしさ」を測定しているので、これらの項目をもって「やさしさ」を必要十分的に測定できたとは言えない。また、今回の調査では研究2の際に具体的な友人を想起させる過程を踏まなかった。これはより一般化された友人に求める「やさしさ」を聞くという意図があったためである。ただそういった過程を踏まないためにジェンダーバイアスや社会的な性差観に引っ張られたものとなっていることが指摘される。以上3点がこの研究の限界と言える。

また、1因子にしたことで削除された項目を概観すると、厳しさを伴うような「やさしさ」などであった。つまりこのような「やさしさ」はやさしさの周辺部分であることがわかる。では逆にこのような厳しいやさしさはどのような条件下で見られるのかについてはよりやさしさを構造化したうえで明らかとなる部分である。今回の因子分析によって削除された項目の「やさしさ」の関係については今後の課題と言えよう。

Figure1より、性差観得点が高い方が、同性と異性で相手に求めるやさしさの程度が異なることが示された。これは、性に関する認知的な枠組みがより強い方が、やさしさを求める対象の性別をより意識し、同性か異性かで、求めるやさしさの程度を変えているということが示唆される。和田（1993）では、性役割タイプから同性友人タイプの差異を検討しており、その結果、男性で女性性の高い者は男性友人関係の特徴が強く見られ、また女性についても逆のパターンで同様の結果になることを報告している。この研究から、自身のもつ性役割タイプが友人関係の在り方を規定していることが示唆されるが、同様に友人関係において性役割の認知が自身の関わり方だけでなく相手からの行動期待に影響を与えることが考えられる。今回の調査はこれを裏付ける結果となったと考えられる。

また、Table3、4より、性別による、同性・異性に求めるやさしさの程度の差が大きい項目が明らかになった。男女共通していたのは「私を遊びに誘ってくれる」「私が遊びに誘うとだいたい乗ってくれる」「私が困ったときに助けてくれる」が、ともに異性よりも同性に求めていることが示された。ここから、“遊びに行く友人は同性に求めるもの”という認識は男女共通の見解であることが考えられる。この点について、和田（2019）では友人への役割期待について男女ともに「共行動」は異性友人よりも同性友人に求めることを指摘しており、“遊びに行く友人は同性に求めるもの”という認識の背景にはこうした性による役割期待の差が反映されたものであると考えられる。また、

男女別に見ると、男性は、求めるやさしさが同性と異性でその程度が異なる項目は上記の3項目のみであったが、女性は、やさしさを求める相手の性別が関わり、男性に求めるものと女性に求めるものの差が見られた項目として、上記3項目のほか、「他人の気持ちを考えて行動する」「必要な時に些細なものを貸してくれる」「私に親身になってくれる」「褒めてくれる」「どんな状況でも友達でいてくれる」「失敗を慰めてくれる」「相談に乗ってくれる」であった。ここから、男性と女性では女性の方が、やさしさを求める相手において性別を意識することが示唆される。特に女性がやさしさを求める相手の性別によってその程度が変わる項目は、具体的な行動が予測される項目であった。その点、研究1において半構造化面接を行った際に、女性のみに求めるやさしさとして挙げられた事柄の理由を尋ねた際「（男性に同じ行為をされても）怖いから」「男性のボディタッチは嫌」という回答が得られている。女性は友人といえども、男性には一定の警戒心を持って接していることがうかがえる。

併せてTable3、4から、男性、女性の両者とも、やさしさを求める相手に差があった項目は、同性の方が異性よりもその程度が大きく、異性により求めるという項目が一つも見られなかったことも興味深い。本研究ではやさしさを求める相手を友人に限定していたため、恋人に求めることは該当しない。本研究で用いた項目のなかに、「異性の恋人には求めるが、異性の友人には求めない」という項目や、「異性の恋人にも友人にも同じ程度求める」という項目が混在している可能性もあり、その点については今後検証していくことが求められる。

Table5の結果から、特に女性に求めるやさしさとして、「必要な時に些細なものを貸してくれる」「私に親身になってくれる」「褒めてくれる」「どんな状況でも友達でいてくれる」「失敗を慰めてくれる」「相談に乗ってくれる」が挙げられた。これらは上記のような、女性が同性に求めるやさしさとしても挙がっているものと重複している。これらの項目の多くは、女性は男性よりも、友人に対して情緒的なサポートを求めるという今尾他（2019）の結果とも一致している。しかしながら、本研究の調査協力者の男女比から考えると、結果から一概に女性に求めるやさしさとすることはできないだろう。この点については、今後さらなる検討が求められる。

総合考察

本研究では、友人に求めるやさしさの種類を調べ、整理すること、また、友人に求めるやさしさについての男女差や性差観との関連を明らかにすることを目的としていた。研究1より、様々なやさしさが明らかとなった。それは、「親切」ともとらえられるものもあり、また他方で「無理な時は無理と言ってくれる」や「叱ってくれる」など一見自身に対し厳しく接するような「やさしさ」もあり「やさしさ」の幅の広さが再確認された。今回の調査では大平（1995）で挙げられている「お互いの弱さを舐めあうような“やさしさ”」や「お互いを傷つけない“やさしさ”」のどちらも見られたことから、「やさしさ」の意味は時代と共に変わっているというよりは増えている、と言った

方が適切かもしれない。そんな「やさしさ」であるが本研究では4つのカテゴリに分類された。本研究から得られた【精神的なサポート】や【物理的なサポート】に類似した心理的行動や物理的行動については今尾他（2019）からも予測されるが、【人間性】【自分への態度】というカテゴリが検出されたのは注目に値する。これは下位項目として〈周囲への配慮〉や〈見返りを求めない〉など道徳性にも通じるところがあり、「やさしさ」の一側面として道徳的な人間性が含まれていることが考えられる。ここから、現代の大学生においては、「やさしさ」の一語において、具体的行動から道徳性、人間性まで表現していることがわかる。相手の心情を尊重、配慮しながら、適切なサポートをする、これが研究1で明らかとなった、求める「やさしさ」の姿ではなかろうか。これについて、近藤ら（2015）では現代大学生の友人間の心理的距離のとり方として、「お互いを尊重する柔軟な距離の取り方」をすることが示されている。また、こうしたお互いに配慮しあいながら適切に距離をとる人間関係の在り方は近年特徴的な「キャラ化」にも都合がいいものと考えられる。本当に心情を理解しているかは別として互いを尊重しあう姿勢は、お互いが呈示しあう「キャラ」を尊重することに繋がるし、また他者から与えられた「キャラ」を受け容れることにもつながるからである。また、「キャラ」は消極的にでも受容していることが心理社会的適応に資する（島，2018）。このように考えると今回の研究で得られた「やさしさ」は現代の大学生における人間関係の様相を表しているものと考えられる。

続いて研究2より、性差観により同性と異性の相手に求めるやさしさの程度が異なること、性別による、同性・異性に求めるやさしさの程度の違いが明らかとなった。本研究では、求める対象を友人に限定している。友人である分、越えない一線が意識され、特に女性においては、その傾向が強いことが考えられる。また、性差観スケールを用いた性差得点の比較から、性差観の違いを意識している人は、性別によって求める「やさしさ」が違うということが示された。このことはやさしさを対人技能として捉えた時に、性にまつわる人間関係への示唆をもたらす。今日では、ジェンダー・ギャップなど男女共同参画が叫ばれ、より一層、性にこだわらないかかわりが増えている。しかし依然として旧来の男性観や女性観などはいまだ残っている。そのようなジレンマが今回の調査にも表れたと言え、軽度のセクシャルハラスメントも男性側には「フレンドリー」に接しただけである場合も多いように（伊藤，2000）、これからの社会ではむしろ、性に配慮したかかわりが必要となって来るのではなかろうか。性差による壁が解消されたからといってなにもかも同じになるわけではない。ちょうど男女の交流がより盛んになる時期である大学生を対象にとった今回の調査でこうした男女差が見られたように平等になりつつある社会においても性差による価値観の違い無視できないと言えよう。

本研究ではやさしさを求める相手を「友人」に限定しているが、その相手が恋人や家族、上司、などの関係性の違いによって異なることも予想され、また、その関係性の中に性別や性差観が影響する可能性もある。また、今回は大学生に限定しているが、これが社会人や小学生など社会的身分

を変えるとやさしさの種類も変わってくる可能性もある。このように、求める相手を様々な幅で考え、本研究との違いを検討することは、有意義な研究となるだろう。

引用文献

浅川潔司・八尋義晴・浅川淳司（2008）．児童期の愛他行動と共感性に関する発達的研究　兵庫教育大学，*33*，31-38.

土井隆義（2004）．「個性」を煽られる子どもたち―親密圏の変容を考える　岩波書店

江口知子（2002）．貸与行動における向社会的判断と愛他的判断　信州大学教育学部紀要，*108*，91-99.

榎本淳子（1999）．青年期における友人の活動と友人に対する感情の発達的変化　教育心理学研究，*47*，p180-190.

後藤順子（2010）．現代日本の若者のアイデンティティ再考―キャラ的コミュニケーションからみる自己概念のダイナミズム―，　兵庫教育大学修士論文集

菱田陽子（2003）．現代青年の自己受容に関する分析（2）やさしさを中心とした性差の検討　北陸学院短期大学紀要，*35*，195-211.

Erikson，E.H.（1959）．Psychological Issues Identity and Lifecycle. International Universities Press，Inc.

（西平直・中島由恵　（訳）（2011）．アイデンティティとライフサイクル 誠信書房）

深田博己（2015）．親切の哲学と心理学　　対人コミュニケーション研究，*3*，33-83.

今尾信之・太田詠美・川島信喜・小杉拓郎・番川達也（2019）.「やさしさ」の意味　その行動は「やさしさ」のつもりですか？ 論文集　金沢大学人間社会学域経済学類社会言語学演習　編，*14*，p1-14.

伊藤裕子（1997）．高校生における性差観の形成環境と性役割選択―性差観スケール（SGC）作成の試み―　教育心理学研究，*45*，p369-404.

伊藤裕子（2000）．ジェンダーの発達心理学　ミネルヴァ書房

鈴木淳子（1994）．平等主義的性役割態度スケール短縮 版（SESRA-S）の作成心理学研究，*65*，1，p34-41.

金子劭榮・村井仁（1999）．現代青年におけるやさしさの構造に関する分析的研究　金沢大学教育学部紀要，*46*，p177－191.

川喜田二郎（2017）．発想法 創造性開発のために 改版　中央公論新社

近藤賢・山下翼・升元崇史・宮崎理紗・川井田大輔・谷口弘一（2015）．大学生の友人関係における心理的距離のとり方　教育実践総合センター紀要，*14*，137-140.

児玉真樹子・杉本明子・松田文子（2002）．現代の男女大学生の性格特性と性役割認知　広島大学

心理学研究，*2*，p73-84.

髙坂康雅（2010）．大学生における同性友人, 異性友人, 恋人に対する期待の比較　パーソナリティ研究，*18*，2，p140-151.

栗原彬（1989）．やさしさの存在証明―若者と制度のインターフェイス―　新曜社.

新村出（編）（2008）．『広辞苑』第六版　岩波書店

大平健（1995）．やさしさの精神病理　岩波書店

斎藤誠一（1996）．青年期の人間関係　培風館

坂井玲奈（2015）．思いやりに関する研究の概観と展望－行動に表れない思いやりに注目する必要性の提唱－　東京大学大学院教育学研究科紀要，*45*，143-148.

島義弘（2018）.“キャラ”の有無およびその受け止め方と大学生の自己―自尊感情, アイデンティティ, 自己愛に注目して―　鹿児島大学教育学部研究紀要.人文・社会科学編，*70*，121-132.

高野清純（1982）．愛他心の発達心理学―思いやりと共感を育てる―　有斐閣

竹内整一（2016）.「やさしさ」と日本人　筑摩書房

山田忠雄他（編）（2013）．新明解国語辞典　第七版　株式会社三省堂.

山下倫美･坂田桐子（2009）．性役割に対する意識がソーシャル･サポート源として恋愛パートナーに及ぼす影響　流通経済大学社会学部論叢，*20*，1，p59-73.

山田雅子（2010）．顔の性別判断による性差観予測の試み―若年女性における肌色のステレオタイプ効果とジェンダー意識―　埼玉女子短期大学研究紀要，*21*，p299-314.

吉岡真梨子・井上弥（2019）．性役割期待が中学生の自己呈示に及ぼす影響　パーソナリティ研究，*28*，2，p140-149.

和田実（1993）．同性友人関係：その性差および性役割タイプによる差異　社会心理学研究，*8*，2，p67-75.

和田実・石倉美月（2019）．同性・異性友人への役割期待：性，過去に恋愛関係にあった異性友人，および現在の恋人の有無との関連　人間学研究，*17*，71-95.